

証券コード6859

エスペック株式会社

2022年度(2023年3月期)

第2四半期決算説明

2022年11月24日

代表取締役 執行役員社長 荒田 知

# 2022年度第2四半期 決算概要

エレクトロニクスおよび自動車関連が好調に推移し、受注高・売上高は過去最高を更新  
営業利益は前年同期比で大幅増加、予想比では部品調達難・部材価格高騰により未達

## 前年同期比

## 期初予想比

	前年同期比	期初予想比
■ 受注高	○ 装置事業(主に環境試験器)が大幅に増加	○ 装置事業(主に環境試験器)が想定を大幅に上回る
■ 売上高	○ 装置事業(主に環境試験器)が大幅に増加	△ 部品調達難の継続により主に装置事業がやや下回る
■ 営業利益	○ 販管費は増加したが増収により大幅に増加	× 売上高の未達、生産効率の改善遅れ、部材価格高騰により下回る(販管費は予想内)
■ 経常利益 親会社株主に帰属する四半期純利益	○ 営業利益の増加により増加	× 営業利益の減少により下回る

■ 10月28日、第2四半期および通期の業績予想を修正

配当については期初予想より修正なし(中間24円、期末45円、年間69円)

# 損益の状況

(百万円)

	2021年度 2Q累計実績	2022年度 2Q累計期初予想	2022年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
受注高	26,569	24,000	33,266	+25.2%	+38.6%
売上高	17,568	23,500	22,945	+30.6%	△2.4%
売上原価 (原価率)	11,686 (66.5%)	15,150 (64.5%)	15,150 (66.0%)	+29.6% 0.5pt改善	+0.0% 1.5pt悪化
売上総利益	5,881	8,350	7,794	+32.5%	△6.6%
販管費	5,485	6,400	6,399	+16.7%	△0.0%
営業利益	396	1,950	1,395	+252.3%	△28.4%
経常利益	474	2,000	1,731	+264.6%	△13.4%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	230	1,300	984	+326.8%	△24.3%

2021年7月よりエスペクサーマルテックシステム株式会社を連結の範囲に含めています。

# セグメント別の損益の状況

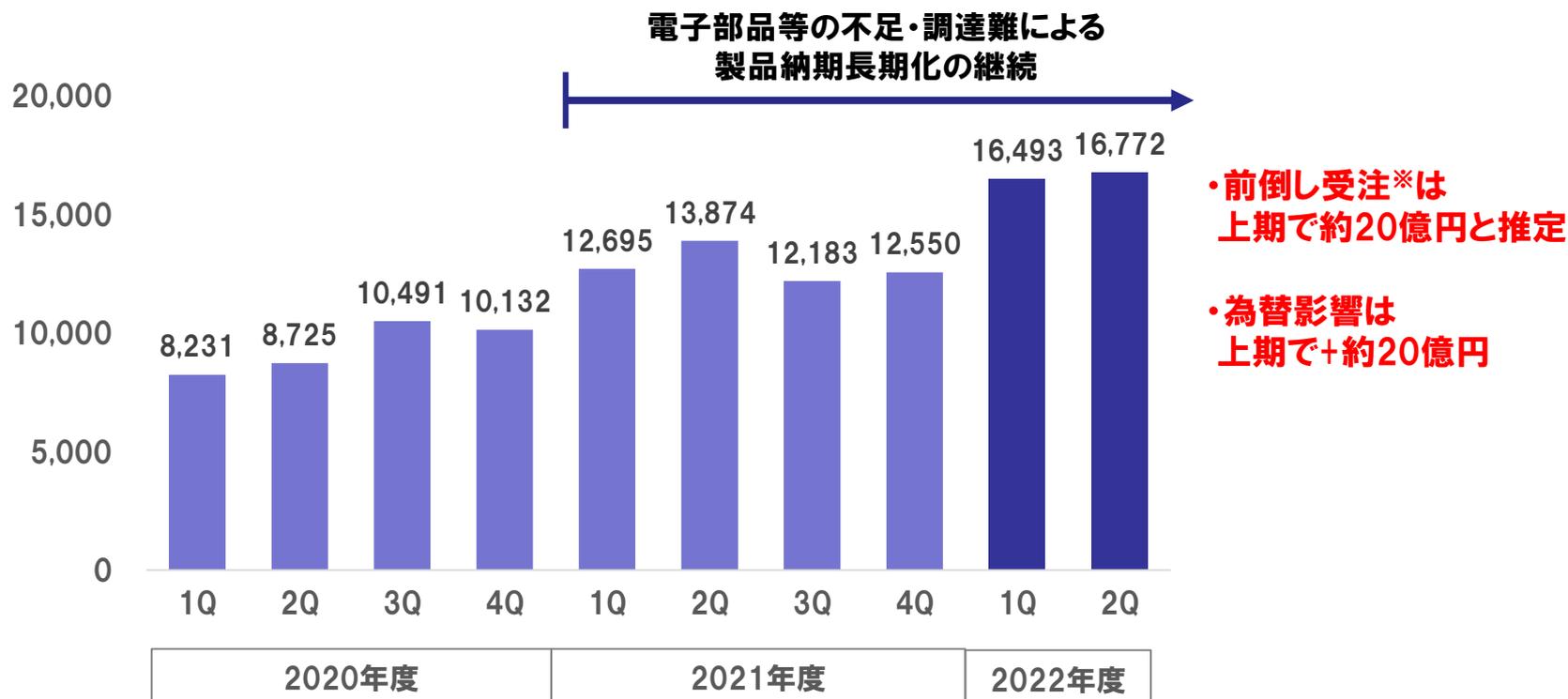
(百万円)

セグメント		2021年度 2Q累計実績	2022年度 2Q累計 期初予想	2022年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
装置事業	受注高	22,763	20,200	29,209	+28.3%	+44.6%
	売上高	14,421	20,000	19,650	+36.3%	△1.7%
	営業利益	322	1,850	1,403	+334.9%	△24.1%
サービス事業	受注高	3,334	3,200	3,470	+4.1%	+8.5%
	売上高	2,948	3,100	3,020	+2.4%	△2.6%
	営業利益	171	150	72	△57.9%	△51.8%
その他事業	受注高	610	750	747	+22.5%	△0.3%
	売上高	316	550	405	+28.0%	△26.3%
	営業利益	△99	△50	△80	-	-
連結消去	受注高	△138	△150	△161	-	-
	売上高	△119	△150	△130	-	-
	営業利益	1	0	△0	-	-
計	受注高	26,569	24,000	33,266	+25.2%	+38.6%
	売上高	17,568	23,500	22,945	+30.6%	△2.4%
	営業利益	396	1,950	1,395	+252.3%	△28.4%

# 2022年度上期実績・受注高について

## ■ 受注高は、エレクトロニクスおよび自動車市場が想定以上に好調に推移

### 四半期ごとの受注高推移(連結)

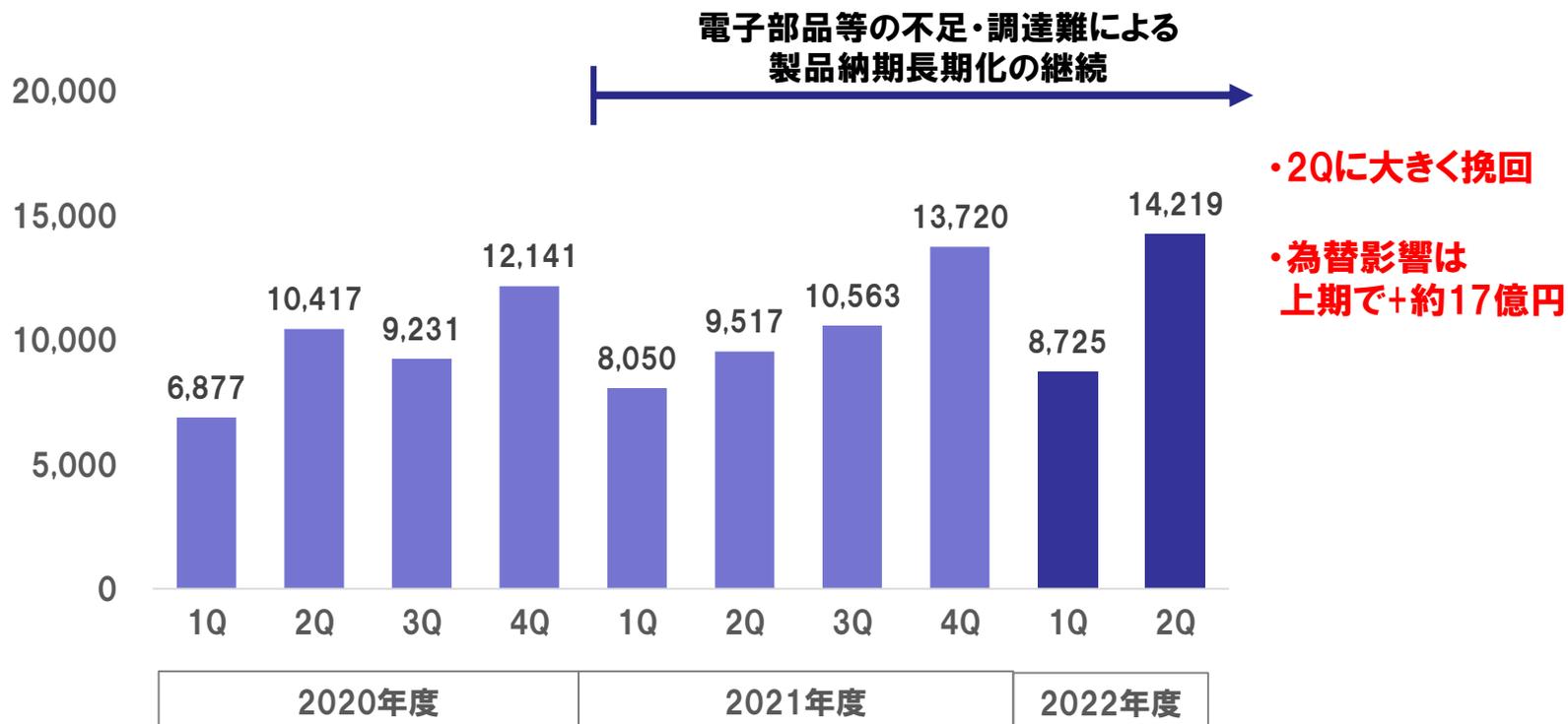


※2023年度受注予定の前倒し分

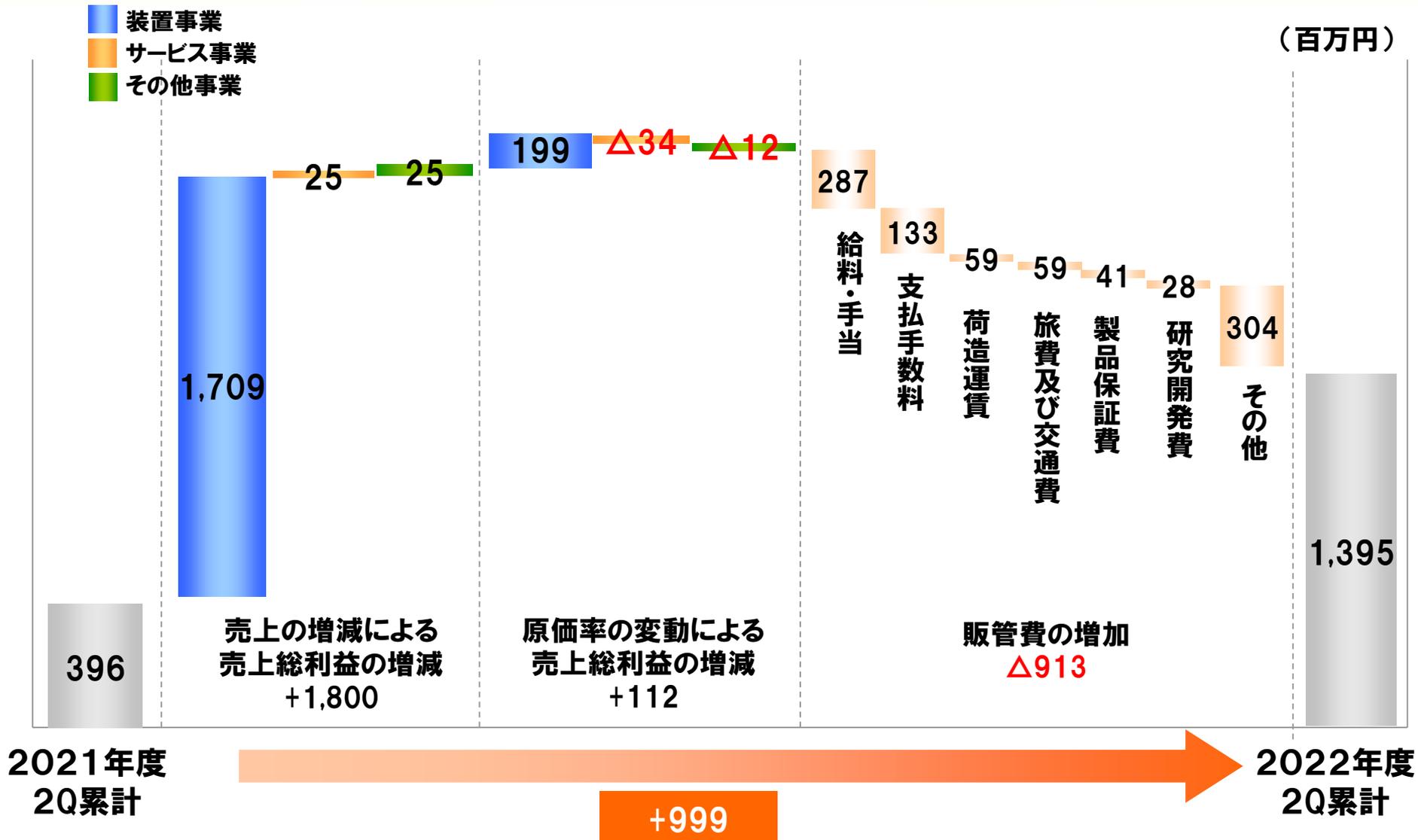
# 2022年度上期実績・売上高について

- 売上高は、1Qは調達難の継続に加え上海ロックダウンの影響を受けたが2Qは製品納期が一部改善、調達見込みに応じて増産体制を整備し挽回

## 四半期ごとの売上高推移(連結)



# 上期営業利益の増減要因分析(前年同期比)



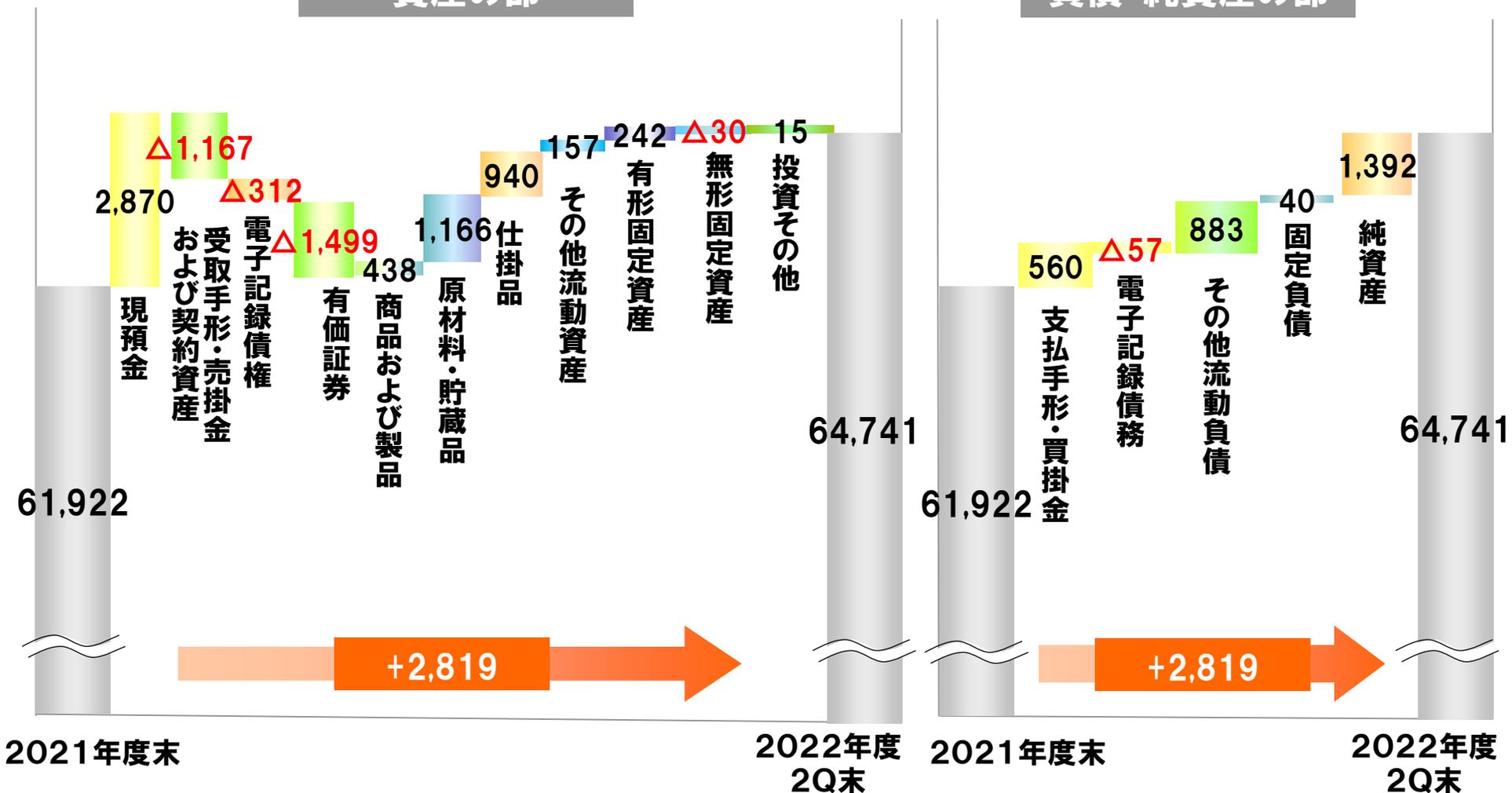
※合計値は全体の売上総利益率を用いて算出しています。

# 資産・負債の状況

(百万円)

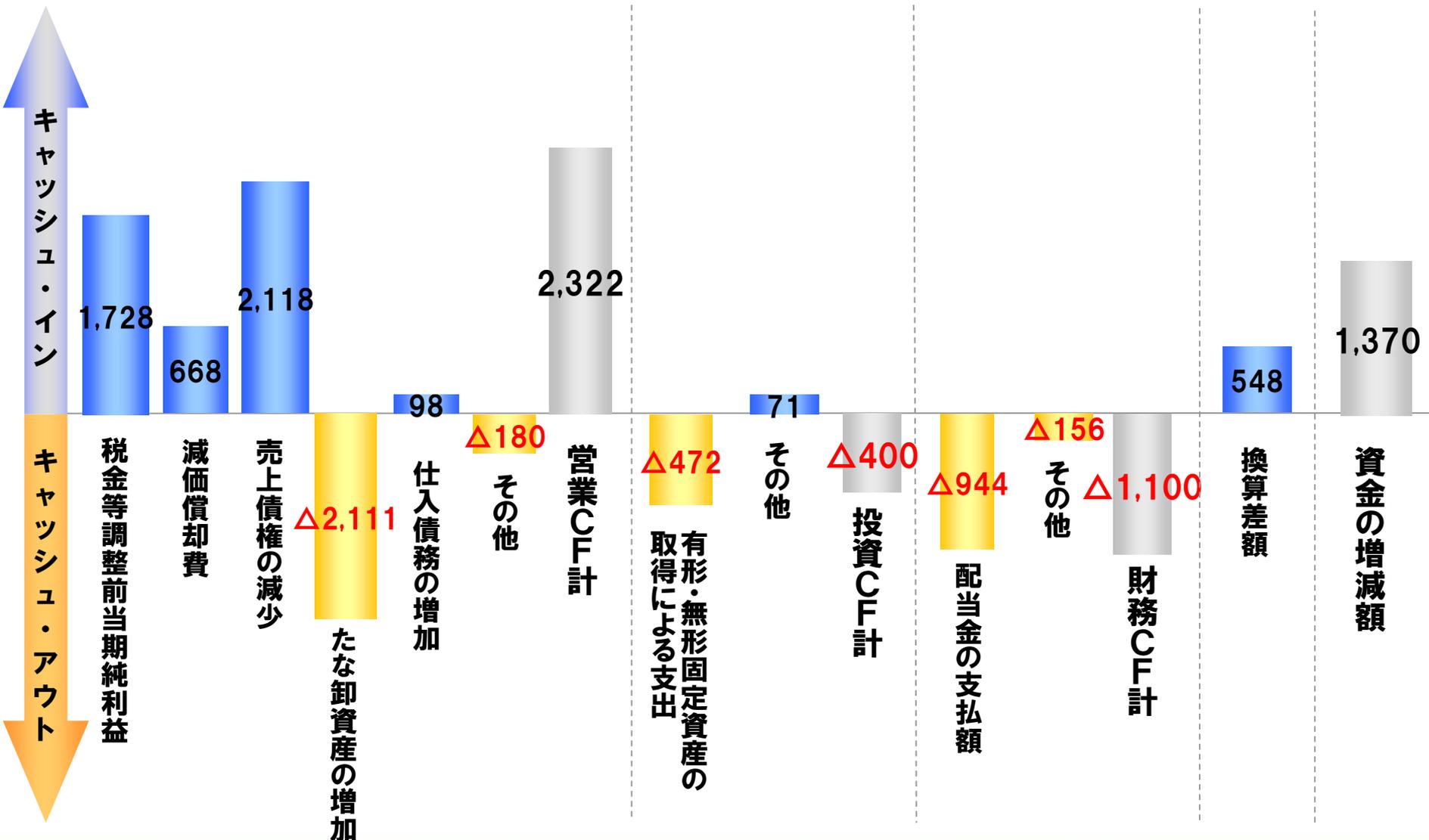
## 資産の部

## 負債・純資産の部



# キャッシュフローの状況

(百万円)



# 装置事業セグメント

(百万円)

	2021年度 2Q累計実績	2022年度 2Q累計期初予想	2022年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
受注高	22,763	20,200	29,209	+28.3%	+44.6%
売上高	14,421	20,000	19,650	+36.3%	△1.7%
営業利益 [利益率(%)]	322 [2.2%]	1,850 [9.3%]	1,403 [7.1%]	+334.9%	△24.1%

## 環境試験器

- 国内では、受注高は汎用性の高い標準製品・カスタム製品ともに前年同期比で増加  
売上高は製品納期の改善が進んだ標準製品を中心に増加
- 海外では、受注高が好調に推移し、売上高は前年同期比で増加  
中国、北米、東南アジア、欧州、韓国、台湾が増加

## エナジーデバイス装置

- 自動車関連の投資の回復により二次電池評価装置の受注を獲得  
受注高は前年同期比で増加、売上高は電子部品不足による製品納期の長期化により減少

## 半導体関連装置

- 自動車関連の投資が堅調に推移し、受注高は前年同期並み、売上高は増加

# サービス事業セグメント

(百万円)

	2021年度 2Q累計実績	2022年度 2Q累計期初予想	2022年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
受注高	3,334	3,200	3,470	+4.1%	+8.5%
売上高	2,948	3,100	3,020	+2.4%	△2.6%
営業利益 [利益率(%)]	171 [5.8%]	150 [4.8%]	72 [2.4%]	△57.9%	△51.8%

## アフターサービス・エンジニアリング

- 保守契約など予防保全サービスが堅調に推移し、受注高は前年同期比で増加、売上高は前年同期並み

## 受託試験・レンタル

- 受託試験が堅調に推移し、受注高は前年同期並み、売上高は前年同期比で増加

# その他事業セグメント

(百万円)

	2021年度 2Q累計実績	2022年度 2Q累計期初予想	2022年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
受注高	610	750	747	+22.5%	△0.3%
売上高	316	550	405	+28.0%	△26.3%
営業利益 [利益率(%)]	△99 [△31.5%]	△50 [△9.1%]	△80 [△19.8%]	-	-

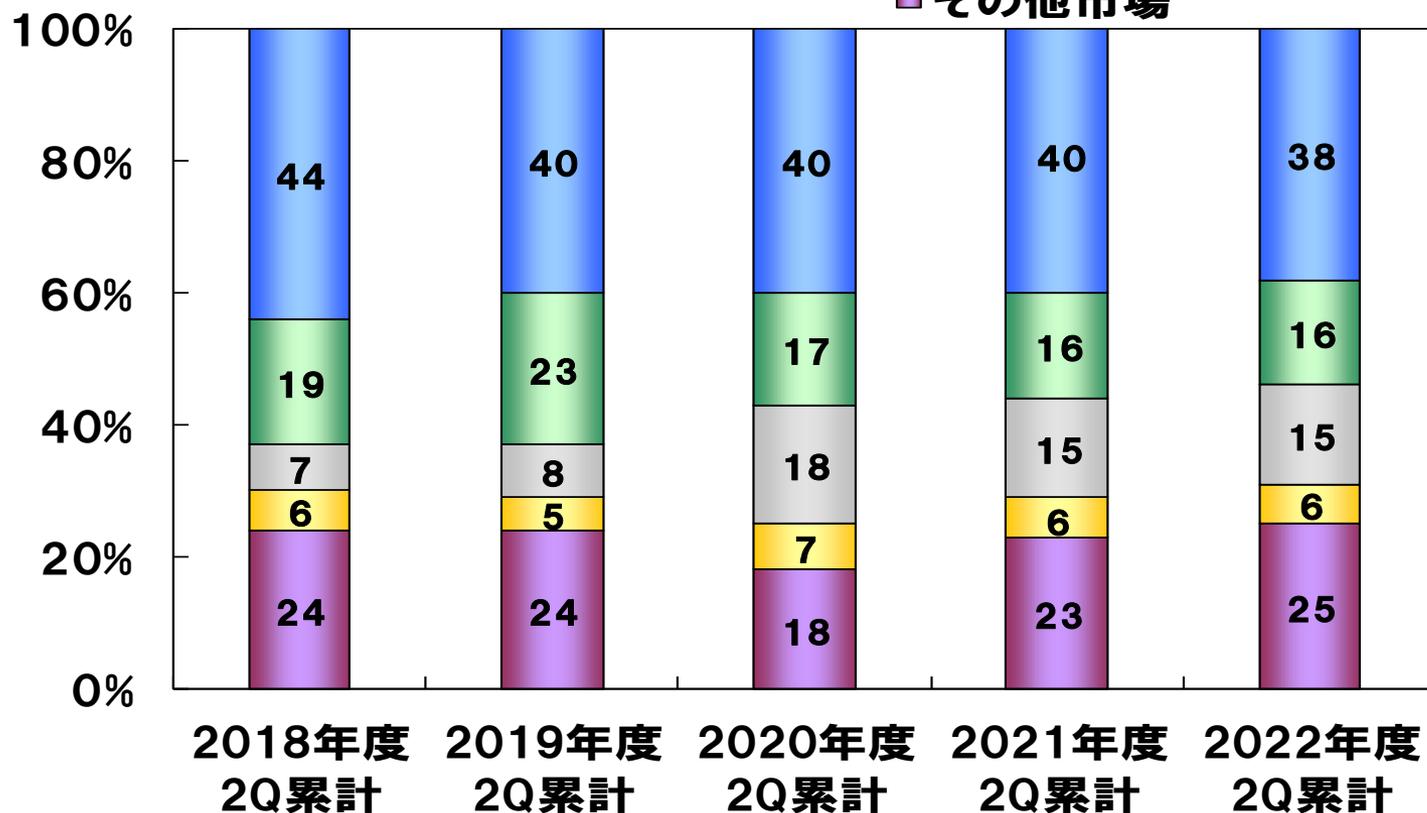
## 環境保全・植物育成装置

- 森づくりが堅調に推移するとともに植物工場など植物育成装置の受注も獲得し、受注高・売上高ともに前年同期比で増加

# 市場別売上構成比

単体(装置事業)

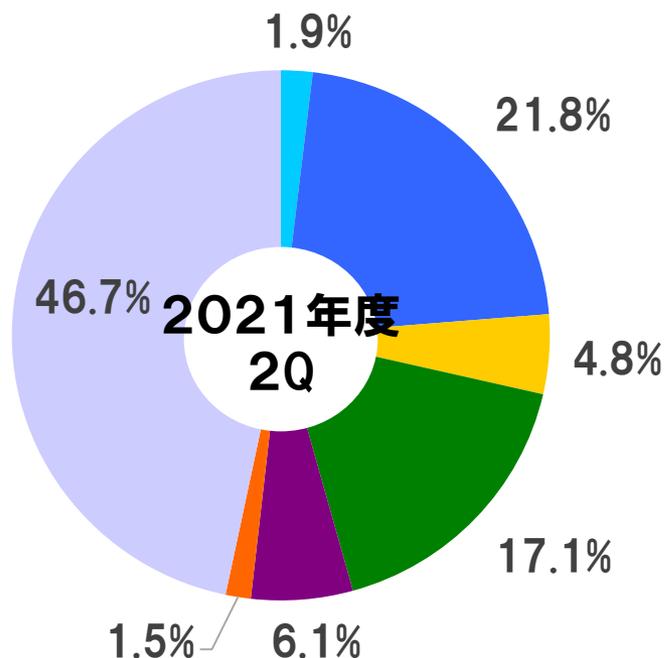
- 電子部品・電子機器市場
- 自動車市場
- 半導体市場
- 研究機関
- その他市場



# 地域別売上構成比

2021年度2Q累計

海外売上高比率:53.3%

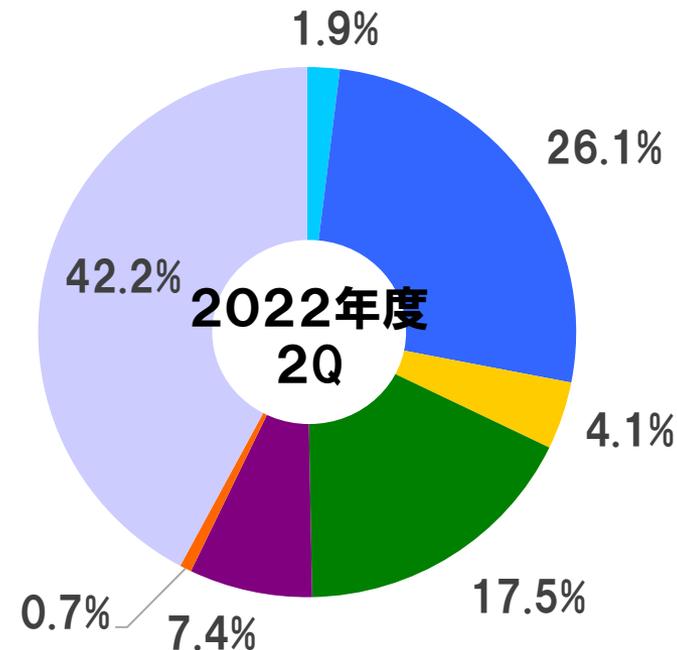


計 17,568百万円

(海外売上高:9,365百万円)

2022年度2Q累計

海外売上高比率:57.8%



計 22,945百万円

(海外売上高:13,268百万円)

# 2022年度 業績予想

	2021年度	2022年度	2022年度 (百万円)			
	通期実績	通期期初予想	上期実績	業績予想(10/28修正)		
				下期	通期	前期比
受注高	51,303	50,000	33,266	25,733	59,000	+15.0%
売上高	41,852	50,000	22,945	29,055	52,000	+24.2%
売上総利益 [利益率(%)]	14,003 [33.5%]	18,000 [36.0%]	7,794 [34.0%]	10,005 [34.4%]	17,800 [34.2%]	+27.1%
販管費 [販管费率(%)]	12,034 [28.8%]	13,000 [26.0%]	6,399 [27.9%]	7,401 [25.5%]	13,800 [26.5%]	+14.7%
営業利益 [利益率(%)]	1,968 [4.7%]	5,000 [10.0%]	1,395 [6.1%]	2,604 [9.0%]	4,000 [7.7%]	+103.2%
経常利益 [利益率(%)]	2,322 [5.5%]	5,100 [10.2%]	1,731 [7.5%]	2,619 [9.0%]	4,350 [8.4%]	+87.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益 [利益率(%)]	1,905 [4.6%]	3,600 [7.2%]	984 [4.3%]	1,916 [6.6%]	2,900 [5.6%]	+52.2%
設備投資額	910	1,840	489	1,351	※1,840	+102.2%
減価償却費	1,253	1,380	664	716	※1,380	+10.1%
研究開発費	1,035	1,330	499	831	※1,330	+28.5%
1株当たり当期純利益(円)	84.89	160.92	43.96	85.54	129.50	+52.6%

通期想定レートを120円から140円に見直し

※期初予想から変更なし

# 環境認識

- ・受注は上期の勢いは落ち着くが、IoTや次世代自動車など先端技術分野を中心に好調に推移すると予想
- ・米中問題や為替変動、エネルギー価格の高騰による世界経済の減速を懸念

装置事業	環境試験器	<p>日本 : 電子部品・機器、EV・自動運転関連の投資は活況</p> <p>中国 : 電子部品、EV、半導体関連を中心に投資は活況 ゼロコロナ政策による影響を懸念</p> <p>ASEAN : 半導体関連を中心に投資は堅調</p> <p>北米 : EV、電子部品・機器、半導体関連を中心に投資は活況</p> <p>欧州 : EV・自動運転、半導体関連を中心に投資は活況</p>
	エネルギーデバイス装置	二次電池向けを中心に投資は堅調
	半導体関連装置	自動車向けを中心に投資は継続
サービス事業	アフター・エンジ 受託試験・レンタル	<p>アフター・エンジ : 前期と同水準になると予想</p> <p>受託試験 : 二次電池を中心に先端技術分野の試験需要が継続</p>
その他事業	環境保全 植物育成装置	森づくりは堅調だが、植物育成装置が低調

# 2022年度の主な取り組み

## 装置事業

- ・先端技術分野の試験ニーズに応える製品ラインアップの拡充
- ・大型製品の海外市場投入によるカスタム製品のグローバル展開
- ・欧州市場向け製品の投入
- ・グローバルカスタマーを中心とする販売強化

## サービス事業

アフターサービス : 新サービス「スーパーサポートプラン」による予防保全サービスの拡大  
受託試験 : 先端技術分野向け試験サービスの拡充

## 新規事業

医薬品コールドチェーン事業や食品機械事業における市場浸透に向けた取り組み強化

# セグメント別の業績予想

		2021年度	2022年度	2022年度 (百万円)			
		通期実績	通期期初予想	上期実績	業績予想(10/28修正)		
					下期	通期	前期比
装置事業	受注高	43,535	41,900	29,209	21,790	51,000	+17.1%
	売上高	34,518	42,100	19,650	24,749	44,400	+28.6%
	営業利益	1,370	4,620	1,403	2,356	3,760	+174.3%
サービス事業	受注高	6,771	6,600	3,470	3,249	6,720	△0.8%
	売上高	6,407	6,500	3,020	3,450	6,470	+1.0%
	営業利益	618	350	72	158	230	△62.8%
その他事業	受注高	1,265	1,800	747	832	1,580	+24.8%
	売上高	1,188	1,700	405	1,025	1,430	+20.4%
	営業利益	△23	30	△80	90	10	-
連結消去	受注高	△269	△300	△161	△139	△300	-
	売上高	△261	△300	△130	△169	△300	-
	営業利益	2	0	△0	0	0	-
計	受注高	51,303	50,000	33,266	25,733	59,000	+15.0%
	売上高	41,852	50,000	22,945	29,055	52,000	+24.2%
	営業利益	1,968	5,000	1,395	2,604	4,000	+103.2%

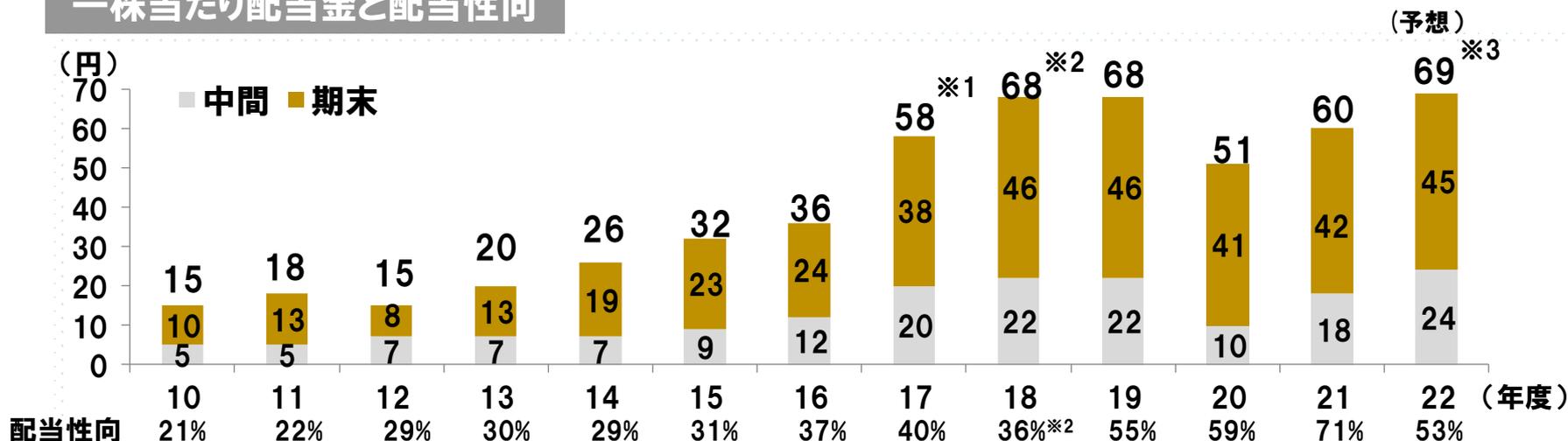
# 2022年度 配当予想

## 利益配分に関する基本方針

配当については継続性と連結配当性向を勘案して決定することを基本としていますが、2022年5月、配当基本方針を以下のとおり改定しました。

- ・配当性向30%に加え、予定必要資金の超過金額の1/3を目途に配当として上乘せする
- ・安定配当として年20円の配当金を利益水準に関わらず維持するが、2期連続で最終赤字の場合は見直しを行う
- ・必要な内部留保の水準を考慮しつつ、自己株式取得を機動的に実施する

## 一株当たり配当金と配当性向



※1.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む

※2.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算 12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)

※3.2022年度は創業75周年記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

# ESGの主な取り組み

## ■E(環境)

- ・2030年度温室効果ガス排出量削減目標を設定
- ・第8次環境中期計画(2022～2025年度)を策定  
地球温暖化対策および生物多様性保全活動を強化

### <温室効果ガス排出量削減目標>

2030年度	SCOPE1+2	60%削減、	SCOPE3	30%削減	(2019年度比)
2025年度	SCOPE1+2	55%削減、	SCOPE3	10%削減	(2019年度比)

- ・2022年6月、有価証券報告書にてTCFDに基づき情報開示

## ■S(社会)

- ・社員(管理職・一般)への学び直し機会の拡大
- ・女性管理職の育成など多様な人材の活躍推進

## ■G(ガバナンス)

- ・2022年6月、監査等委員会設置会社へ移行  
取締役会における審議の充実化、監督機能の強化、取締役会の多様性確保(女性取締役2名)

## 【国内初】車載用バッテリーパック・モジュールの不具合解析サービスを開始

- ・2022年11月、宇都宮テクノコンプレックスのバッテリー安全認証センターにて車載用バッテリーパック・モジュールの不具合解析サービスを開始
- ・パック・モジュールを解体したうえで電氣的・視覚的に診断し、不具合の部位を特定
- ・公正な第三者機関として解析サービスを提供し、車載用バッテリーの性能・安全確保に貢献



パック電池低温解体槽



セル解体用グローブボックス

## 兵庫県立大学と「SDGs推進」に関する協定を締結

- ・2022年8月、兵庫県立大学とSDGs推進を目的とした協定を締結
- ・生物多様性保全、教育・人材育成、環境・エネルギーなどの分野において両者が持つ知見や技術を活かして連携



締結式  
兵庫県立大学 学長 太田勲様(右)  
エスベック 代表取締役会長 石田雅昭(左)

## 生物多様性保全活動 「エスベック50年の森」植樹祭

- ・兵庫県三田市にて林野庁「法人の森林」制度を活用した森づくり「エスベック50年の森」を開始
- ・2022年11月、第1回植樹祭を開催  
炭素固定・生物多様性機能をふまえ苗を選定  
社員など約200名が参加し約4,000本を植樹



第1回植樹祭  
3.6haの土地に2年間で12,000本を植樹予定

# 社外からの評価

2022年11月

- ・日本経済新聞社「第4回日経SDGs経営調査」4つ星
- ・日本経済新聞社「第6回日経スマートワーク経営調査」3.5星



2022年10月

- ・日刊工業新聞社（経産省後援）「第18回企業力ランキング」155位



2022年8月

- ・ブロードバンドセキュリティ「Gomez ESGサイトランキング2022」  
優秀企業に初選定



2022年7月

- ・東洋経済新報社「2022年版SDGs企業ランキング」334位

2022年4月

- ・ESG指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」構成銘柄に初選定



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

2022年2月

- ・東洋経済新報社「2022年版CSR企業ランキング」334位



2021年12月

- ・CDP気候変動レポート2021において2年連続「Bスコア」
- ・日興アイ・アール「2021年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」  
最優秀サイト
- ・ブロードバンドセキュリティ「Gomez IRサイトランキング2021」  
銅賞（業種別27位）



**この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。  
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、  
当社が計画・予測したものであります。  
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは  
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは  
ございません。**

**【お問い合わせ先】**

**エスペック株式会社**

**〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6**

**TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795**

**e-mail ir-div@espec.jp**

**サステナビリティ推進部 部長 中川  
IR・広報グループ 大川・姜**

---

Quality is more than a word

ESPEC